

TOKYO ACCELERATOR

トウキョウブンカエキタイカ

鈴木浩文 (すずきひろふみ)

千葉大学 工学部デザイン工学科



トウキョウは日々軽さを増し、浮遊している
どこまでが現実でどこまでが虚像なのか
実体が掴みにくいトウキョウは人々にどう映る
のか

トウキョウたらしめるものはいったい何か
線で発展をしてきたトウキョウ

その最たるもののひとつが鉄道ネットワーク
綿密、正確、高速

この誇るべきリアルネットワークを利用し
めまぐるしく変わるトウキョウに似合った
流れるような文化流を発生させる

その文化流はさまざまなトウキョウを映し出す
鉄道コンテナが文化流の媒体となり

無機質な駅のホームやまちなかに流れていく
あたりに好奇心がちらばる

文化流はすれ違う人々の目に留まり

トウキョウの様々な姿(文化)を伝える

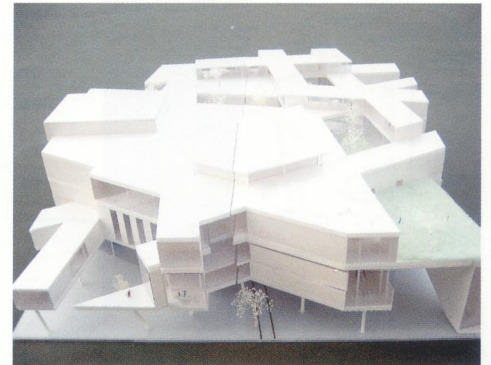
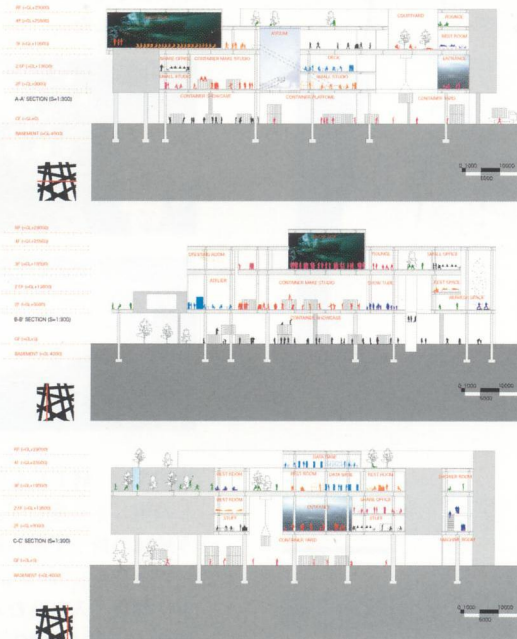
TOKYO ACCELERATORは文化流の源泉

そこでは人々が思い思いに活動し

創造が行われ続ける場所

それは品川の人工島から

トウキョウを動かし続ける



【講評】 私は君の案にショックを受けた。美術館等の展示専用建物は動かない、という固定観念がひっくり返る様なコペルニクスの転回というか、パラダイムの転換という発想に。東京のみならず何処でも何でも送れる情報カプセルとしてのコンテナをシステム化したら、とてつもない可能性を秘めている事になる。コンピューター

では出来ないあらゆる実体情報のデリバリーを行える事を、建築の可能性を大きく広げるものとして評価している。ただ、発射器の理論的プランニング手法は全体構成上必要であろうが強くは印象を受けなかった。いずれにせよ、この案は建築というジャンルをもっと超えた所に位置しているのではないかと。**【審査員：沼田正雄】**